

2023年 新年号

mitaka

はなの会たより

Volume

06

NEWS LETTER

三鷹はなの会広報誌

地域に生きる ~どこで働き・どこで暮らし・誰が支えるか~

祝

アール・ブリュットみたか
優秀賞受賞作品



Kobayashi Shizue 作「花と鳥とコアラ」



TOPICS ~目次~

表紙 (1)

うさぎ年には跳躍を! (2・3)

アール・ブリュットみたか2023 報告 (4~6)

三鷹はなの会ホームページ紹介・編集後記 (7)

李さんのちょこっとレシピ (8)



うさぎ年には跳躍を！

三鷹はなの会 理事長 松崎 伸一



生活介護事業所 らしく
～節分の様子～



今年は今和5年、慣れなかった令和も日常の言葉となりました。その分、昭和がどんどん過去となり昭和生まれの身としては寂しさもあります。しかし時は留まることを知らず、未来に向かって進んでいくもの。うさぎ年にあやかり、大きく跳躍する三鷹はなの会にしていきたいと思えます。

さて皆さん、お正月はいかがお過ごしされたでしょうか。我が家は例年だと信州上田の実家に帰って父と過ごすお正月でしたが、昨年父も九十五歳で旅立ち、迎えてくれる人がなくなってしまいました。そこで今年は思い切って京都の八坂神社で年越しを迎えました。

祇園の八坂神社には年越しの風物詩として人々に守り継がれている行事があります。

「をけら詣（まい）り」です。

をけら詣りは、大みそかの夜から元旦にかけて、夜を徹して御神火を焚（た）く神事で、参拝者はこの火を火縄に移して持ち帰ることができ、神棚の灯明（とうみょう）にともしたり雑煮を炊く火種にしたりして、新しい年の無病息災を祈ります。

大みそかの除夜祭の後、本殿のをけら灯籠（とうろう）に焚かれていた御神火は、境内各所の灯籠へと移されます。燃やされている「をけら」とは、独特の匂いのする葉草のことで、この匂いが魔よけとされ、病気や災いから守ってくれる

とのこと。灯籠には「をけら木」と呼ばれる願い事の書かれた祈願木をくべて、火を絶やさぬよう元旦まで焚き続けているのだとか。をけら灯籠の火を吉兆縄（きちょうなわ）に移して、自宅まで火を消してしまわぬよう、くるくると回しながら持ち帰るのが風習とか。

本殿をお参りしたあと、境内の脇にある灯籠に近寄ると、すぐ横でお兄さんたちが吉兆縄を大きな声をかけて売っていました。早速吉兆縄を買い、灯籠から御神火を移して、くるくると回しながら歩きました。この火縄、「をけら」のせいなのか、何か他に工夫があるのか簡単には消えません。さすがに火をつけたまま電車には乗れませんが、境内をくるくると火縄をまわして歩くのは、童心を呼び起

こします。不思議な経験をしました。

残った火縄は「火伏せのお守り」として台所に祀（まつ）っておくと良いとかで、今は我が家の台所に掛けてあります。

さて今年は十千十二支で「癸卯」（みずのとうさぎ）年とのこと。この年は前年までの様々なことに区切りが付き、次へと向かう年と言われているようです。

未来に跳躍を！



京都 八坂神社
～「をけら詣り」の様子～



アール・ブリュットみたか 2023

ひと×まち×アート

来場者 1085 人！



2023年1月4日～15日 三鷹市民ギャラリーにて



河村三鷹市長より
ごあいさつ



三鷹市（スポーツと文化部、障がい者支援課、生活経済課）、三鷹商工会、三鷹市商店会連合会、そして私達ぴゅあネット事業運営委員会が協力し、念願だった三鷹でのアート展「アール・ブリュットみたか2023 ひと×まち×アート」が開催されました。「障がいを抱えた人の芸術文化振興及び共生社会の実現に向けた取組を推進し、地域と連携により賑わいを創出し地域全体の活性化を図る。」を目的とし、約一年、商工会青年部の皆さんと協議を重ね、一つ一つ内容、役割、工程、予算をまとめ、検討、実行を繰り返してきました。

そもそもアール・ブリュットって？
アール・ブリュットとは「生の芸術」を意味するフランス語で、「正規の美術教育を受けていない人による芸術」「既存の美術潮流に影響されない表現」と説明されます。その中の一部「障がいを抱えた人の表現」としての活動が世界から日本へと推進されています。芸術と福祉。解釈は様々ですが、表現の魅力だけではなく、障がいを抱えた人について知っても

らう機会にも繋がる活動とも捉えられています。活動の流れから今回、文化庁が展開する日本博を契機としたアール・ブリュットプロジェクト展との併設開催へと繋がり、三鷹市民からの作品、世界をまたぐ6人の作品が一同に展示されることとなりました。

三鷹市民応募総数46作品から27名の作品が選考され、選考委員長「YAN山梨アール・ブリュットネットワークセンター」瀧澤さんのご協力のもと、素人ながらも実行委員28名でカラフルに装飾させていただきました。今回は最優秀賞、優秀賞、三鷹市長特別賞が設けられ、「らしく」で創作した小林静江さんの作品（「花と鳥とコアラ」）が見事！優秀賞に選ばれました。また日本博の展示からは、作者一人一人の生活までが感じられる演出により作品の魅力と同時に人を引き付ける展示の仕方を学ばせてもらいました。

10日間の開催（中2日は休館日）で来場者は1085人。老若男女問わず、市民からのアンケートには偏見や誤解、先入

観が払拭されたという感想が多く見られ、実行委員一同今回の展示会での達成感を感じることが出来ました。最終日には三鷹市長はじめ多くの来賓から祝辞を頂き、表彰式では作者3名の笑顔も見られ、賑やかな閉会式で幕を閉じました。

会場でお会いした全国のアール・ブリュット作品、作者を撮っている写真家、大西暢夫さんの言葉。「彼らが表そうとするものには、描き続けることや、切ることや、折ることなど無数の形がある。僕たちが容易に使っている言葉の表現より、相手に伝えやすい手段なのかもしれない。たまたま彼らのその手段に驚くものが多い、僕たちの目を釘付けにしてきた。それをアール・ブリュットと言うのだろうか。しかしアートといえども庶民的なところが、どの作品にも見え隠れしている。必ずと言っていいほど、生活習慣の中にその痕跡がある。自然発生的にアートが生まれるというより、アートは暮らしの中にある。それに気が付いたことで、作品がとても身近になった。」きっかけや支え続ける存在に、私達が目指して行かなければと教わりました。

第2回開催を目指して検討中です。初めて会う人、普段携わらなかった人、直福祉をあまり理解していなかったと言う人との1年の協働は私にとって本当に有難い時間でした。一つの目的に向かい素敵なチームに整ったこと、2回目に繋げる意志にまとまったことを実行委員長はじめ参加してくださった皆さんに感謝しています。ありがとうございました。

これを読まれている皆さん、準備はいいですか。生活や支援の中でのちよつとした気づきの切り替えて、三鷹の中でも芸術家を見つけられるかもしれません。

（アール・ブリュットみたか 2023 実行委員会副委員長・三鷹はなの会 加藤亮一）





三鷹はなの会 ホームページが 新しくなりました！

お待たせしました！

この度、三鷹はなの会のホームページが新しくなり、インターネット上に再アップされました！

最近の通信機器状況を考慮し、スマートフォン対応型のホームページとなりました。スクロールすることで全体を見ることができます。

いつでもどこでもどなたでも見やすいように改善されました(^_^)

また、「はなの会たより」のバックナンバーも見ることができますよ。

皆さま、是非ご活用ください！



三鷹はなの会
ホームページQRコード



【編集後記】

編集後記を書いている今日(1月26日)は、旧正月の「初五」。明日から正月の色々ルールを守らなくても済むということで「破五」とも言います。中国ではお祝いして、早朝から餃子を食べる習慣があります。「破五」を過ぎると、お正月ムードも一段落、ほっと一息です。

早速、「一陽来復」のお守りをもらいに行きました。どうやらこの日、東京ではこの冬一番の寒さということで、とっても寒かったです。こんな寒い日に皆さん、どうお過ごしだったでしょうか。私は、早朝のお祝いの餃子として、餃子スープにして食べました。体はぽっかぽかになりました！これで「一陽来復」の春は来るでしょうか(^_^)

沢山の「福」が皆さまにも届きますように。

本年もどうぞよろしくお願ひいたします。(本部事務局 李 艶)





李さんの
ちょこっと
レシピ

とってもおいしい「簡単 本格餃子」

餃子は小麦粉で作った皮で肉や野菜を包んだもの。中国では茹でるのが定番で、日本でポピュラーな焼き餃子はあまり見かけません。正月である春節に食べる縁起物です。

材料（50～60 個分）

- ①豚ひき肉 300g
- ②白菜 300g
- ☆長ネギ 100g
- ☆塩 少々
- ☆生姜 少々
- ☆醤油 大さじ1
- ☆ごま油 大さじ1



作り方

- ① 豚ひき肉☆を入れて混ぜます。
- ② 白菜をみじん切りにして水分を絞り出します。
- ③ ①と②をしっかりと混ぜ込み完成です。



★ 餃子の皮に包んで、
お好きな方法でお召し上がりください

